

豊洲児童館は、開放的なイメージが魅力の湾岸地域にあります。「豊洲」と聞くと新しい街のイメージがある人もいると思いますが、豊洲児童館は40年以上、この地で地域に支えられながら歴史を重ねてきました。先日も幼少時に遊びに来たことがあるという方が子連れで来館され、懐かしんでいました。

【中学生支援】

今年度より中学生支援に積極的に取り組む児童館として、週に一度、19時までの時間延長を始めました。長く遊べるようになっただけでなく、時間の制約で遊びに来られなかった子が来館しやすくなったことで、とても好評です。



音楽を楽しむ中学生

また、カードゲーム用にプレイマットを置いた専用のスペースも用意しました。他の遊びと

違い、初めて会った人とも対戦しやすく、学校・年齢の違う子どもたちの交流を図ることができています。

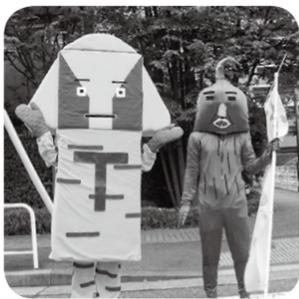


カードゲームを楽しむ中学生

大きくなるにつれ、悩みや不安も出てくる中で、児童館が少しでも居場所と感じられ、ほっとできる場所になることを目指しています。また、のびのびと過ごすための「自由」にはルールがあり、「勝手」とは違うということを学べる環境づくりもしていきます。

【子どもたちの声の実現】

自分たちの意見が実現することで、児童館がより身近なものに感じられるのでは？ということと、キャラクターコンテストを開催しました。小学生と中学生からそれぞれ大賞を選び、とよボーとトヨスレンジャーが誕生しました。その後、着ぐるみを制作し、児童館の行事に登場させています。



とよボーとトヨスレンジャー

こども用の御意見箱も設置しました。「Free Wi-Fiの設置」など現代的かつ実現が難しそう

な要望も入ってきますが、みんな気軽に書いてくれています。

【ママパパ応援！】

「ママパパ・カフェ」事業として平日の午前中、保護者に部屋を開放しています。子育てひろばで仲良くなった保護者が憩いの場として利用したり、幼稚園や小学校の保護者が活動場所として利用したりしています。講師を招いての「ベビーサロン」も人気で、土曜日の開催では父親の参加も多いです。



ママパパ・カフェ

【地域交流】

地域との交流も積極的に行っていて、町会や小学校のお祭りに参加しています。豊洲商友会のハロウィンパレードには、とよボーとトヨスレンジャーの着ぐるみで参加しました。多くの方に話しかけられたり、写真を頼まれたりと大人気でした。



折り紙を楽しむ外国人

豊洲文化センターには、年に一度の祭典「豊洲フェスタ」や、講師として隔月開催の外国人向け行事「外国人のための日本文化体験」に参加しています。

【地域企業との交流】

地域の企業に協力していただき、開催する行事もあります。サケ缶で有名なマルハニチロ株式会社には、缶詰を利用したタイムカプセル作りをしていただき、宝物や未来の自分へ手紙を入れました。プロレス団体のノアには、現役チャンピオンのプロレスラーに来ていただき、一緒にドッジボールやマンカラ等で遊んだ後、プロレス教室を開催してもらいました。



プロレス団体ノアによるプロレス教室

【この街と共に】

40年以上の歴史ある豊洲児童館。これからも地域の一員として歴史を刻んでいきたいと思えます。こどもたちは、この先、不安や困難にぶつかることがあるかもしれません。この場所に在り続けることで、ふとしたときに思い出したり、顔を出したりできる。そんな「心のふるさと」になれるような児童館にしていきたいです。

豊洲児童館

TEL (3531) 2079
Fax (3531) 2079



花いっぱい学校 平久小学校

平久小学校では、地域の方を指導者として、昭和55年頃から菊の栽培に取り組んでいます。3年生以上は1人1鉢、1・2年生は学級ごとに春に菊の苗を植え、大事に育てています。花を育てることで、「慈しみの心」を育てたいとの思いで始めた活動です。

こどもたちは、菊の成長を楽しみに毎朝水をあげています。夏休み中も、地域の協力者や保護者の方々、栽培委員会の児童が学校を訪れて水をやり、学校全体で菊の開花を楽しみにしています。毎年秋には「観菊会」を開催し、児童だけでなく、地域の方の菊も展示され、見る人を楽しませます。

菊の後に植えるチューリップの球根は、翌年の春、児童の入学・進級を祝うかのように一斉に開花します。花いっぱい豊洲児童館が集う平久小です。



秋の観菊会

姿勢で自分をデザインする 体力と集中力を高める 深川第一中学校

学び方スタンダードの本校の課題は、「姿勢」にあります。昨年、生徒会保健委員会はよい姿勢について調査・研究し、全校生徒に発表しました。

今年4月、虎ノ門カイロプラティック院長の碓田琢磨先生から「姿勢で自分をデザインする」というお話を聞き、次のことを知りました。

- 1、姿勢の正体は、体力だった。
- 2、よい姿勢で脳が活性化する。
- 3、よい姿勢で、スポーツのパフォーマンスが上がる。
- 4、よい姿勢で、なりたい自分になれる。

今、本校ではこのお話を受け、毎朝、保健委員のかけ声で、「イスの正座」を行っています。「イスの正座」とは、次のような座り方です。①立った時の腰のカーブを覚える。②座った時に立った時と同じ腰のカーブにする。③足の裏をしっかりと床につける。④手のひらを上にして脚の付け根に置く。



イスの正座 (地球に対してまっすぐに座る)

この座り方を毎日続けることで、授業中、地球に対して体をまっすぐに座る姿勢・体力づくりに取り組んでいます。

俳句づくりの ワンポイント⑤

夏の俳句を作る。夏のイメージを代表するもの一つに「入道雲」があります。この入道雲を例にして夏の俳句の作り方を説明します。

入道雲とは、巨大な「積乱雲」のことです。形がお坊さんの頭のようなので、この名前がつけました。「雲の峰」や「夏の雲」も入道雲の別名です。

芭蕉が「おくのほそ道」で詠んだ
雲の峰いくつ崩れて月の山
という俳句は特に有名です。

俳句は一種の連想ゲームです。俳句を作るためには、入道雲を見て思い浮かぶ言葉をいろいろ挙げてみましょう。こうした言葉をたくさん挙げられれば、俳句作品まであと一歩です。

もくもく、山のように、雨がふる、夕立、豪雨、巨大、ソフトクリームみたい

もくもくと町を呑み込む入道雲
実際に入道雲を見た時の事も思い出してみよう。

旅先で見た、公園のぐらんこで見た、ぐんぐん大きくなった、水平線のむこう側にあった、すぐ雨が降ってきた
入道雲水手緑のむこう側
人によって夏のイメージは様々です。「ひまわり」を思い出す人もいますし、「海水浴」という人もいます。

「自分の夏」を象徴する言葉を決めて、俳句を作ってみましょう。
学校支援課学校支援係
TEL (3647) 9307
Fax (3647) 9053

小中学校PTA広報紙コンクール

今年の区長賞は東陽小と三電中

小中学校PTA連合会と区教委は、PTAを応援する目的で毎年各校のPTA広報紙のコンクールを行っています。今年も63校から応募がありました。

審査は、朝日、東京、日本教育、毎日、読売の新聞各社、小中学校長会、PTA連合会などの審査員によって行われます。すべての広報紙に目を通し、協議を行いました。

審査会では、「保護者の知りたいこと」に添っている「地域や家庭との連携に心を配っている」「SNSや防犯など、最も気になるテーマを取り上げている」「運動会ではこどもの競技ばかりでなく、先生やPTAの動きに目をとめ、立体的な構成になっている」「こどもたちの表情がいきいきしている」など各校PTA広報部の積極的な取り組みが高く評価されました。

平成29年度 受賞校・作品タイトル一覧

| 賞 | タイトル・PTA |
|-------------|----------------------------|
| 区長賞 | [sunsun Toyo] 東陽小学校PTA |
| | [響き] 第三亀戸中学校PTA |
| 教育委員会賞 | [いちだい] 第一大島小学校PTA |
| | [O.West西中PTAだより] 大島西中学校PTA |
| 小学校PTA連合会長賞 | [とうせん] 東川小学校PTA |
| 中学校PTA連合会長賞 | [ふかろく] 深川第六中学校PTA |
| 企画賞 | [たいよう] 浅間聖川小学校PTA |
| | [深川三中PTA会報] 深川第三中学校PTA |
| 審査員賞 | [もとかが] 元加賀小学校PTA |
| | [おやがめ] 第二亀戸小学校PTA |
| | [PTA明治だより] 明治小学校PTA |
| | [ねっとわーく] 毛利小学校PTA |
| | [わだち] 深川第一中学校PTA |
| | [六花] 深川第二中学校PTA |

受賞作品は、6月11日(日)から8月上旬まで江東図書館で展示します。

庶務課社会教育担当
TEL (3647) 9676
Fax (5690) 6911

東陽小学校[sunsun Toyo]より「ぼくもわたしもメダリスト!」

第三亀戸中学校「響き」より「三亀中アンケート」

大島西中学校「O.West西中PTAだより」より「活動報告」

第一大島小学校「いちだい」より「一大小さいまどき小学生調査」

江東区立幼稚園

遊びの中で育つ園児たち

来年度から、新しい幼稚園教育要領に基づく教育がはじまります。

平成30年4月より、新しい幼稚園教育要領に基づいた教育を実施します。これまでも幼稚園では人格形成の基礎を培うことを大切に教育してきましたが、新しい教育要領では、園児が「生きる力」の基礎を育み、5歳児修了時まで「育ってほしい」十の姿の中に、「自然との関わり・生命尊重」というものがあります。それが「遊び」の中で育っていった例を紹介します。

ソラマメの栽培・収穫を通して育った園児の姿

昨年の11月、ソラマメの種を植えた園児たち。観察を続けていく中で、次第に好奇心が高まってきました。

春休みには、花が咲き、園児はその花の数を数えたり、大きさを比べたりしながら、実がなる日を楽しみにしていました。

教師に読んでもらった本「そらめくんのベッド」の中に書かれていた、さやのふわふわの感触を楽しみにしていました。

ソラマメのさやが大きくなり、膨らんでくるといよいよ収穫です。さやを裂いて、ソラマメを取り出すと、大喜びです。

ソラマメが、できてるよ。3



ソラマメができたよ!

個!と、大歓声をあげると、「僕のは、4個だよ。」と言う声も。「さやの内側が」ふわふわであったかだよ。」と、笑顔で周りにいる友達に伝えていきます。

園庭で遊んでいた園児もその声を聞いて集まり、大はしゃぎです。年長組だけではなく、年少組も興味をもち、プランターの回りに集まりました。その日に、早速、塩茹でにし、みんなで、食べました。

豊洲図書館の「子ども読書の日」

4月23日は「子ども読書の日」です。

江東区立図書館では全館にてそれぞれ趣向を凝らしたことも向けのイベントを行いました。

豊洲図書館では、当日来館したおむね3歳から6歳くらいのこどもが誰でも参加できる「子ども読書の日おはなし会」と、事前申込みの「ぬいぐるみおとまり会」を開催しました。

「子ども読書の日おはなし会」では、読み聞かせボランティアによる手遊びや指人形、「子ども読書の日」にちなみ、「図書館」をテーマにした絵本や、こどもたちに人気のある大型絵本の読み聞かせを行いました。最後には、この季節に咲くチューリップのおりがみを参加者全員で折りました。



んなカメラに笑顔向けられました。

これから、大好きなぬいぐるみとしばしのお別れです。「○○(ぬいぐるみの名前)がいなくても大丈夫かな?」という問いかけに、元気に「うん!」と返事をする子もいれば、無言でうなずく子もいました。

後日、ぬいぐるみを迎えに来た参加者に、ぬいぐるみと一緒に過ごした絵本を貸し出しました。

この一連の活動の中で、園児はソラマメの成長に触れ、生命のあるものへの親しみや「大切にしよう」という気持ちが育っていききました。園児は、遊びの中で、身近なことに積極的に関わり、様々なことを感じ取ったり、気付いたりします。そして、その中から考え、工夫するなど、多様な関わりを楽しむようになりそうです。「遊びの中で育つ力」は、この先の小学校・中学校はもとより、生涯において重要な力です。江東区立幼稚園では、全園をあげてこのような取組を行っています。

「ぬいぐるみおとまり会」は、参加するこどもたちが1つずつ連れてきたお気に入りのぬいぐるみを、一晩図書館におとまりさせるイベントです。

こどもたちは受付をしたあと、名札に自分の名前とぬいぐるみの名前を書きました。ぬいぐるみにつけるリボンの色を迷ってなかなか決められなかったり、自主的に受付のお手伝いをして、ほかのお友達に名札を書かサインペンの色を何色と何色があるんだよと教えたり、みんな楽しんで作業をしました。

ぬいぐるみに名札をつけたら一緒に記念撮影です。大事なぬいぐるみをしっかり抱えて、み

ぬいぐるみたちのおはなし会 図書館にいるぬいぐるみの「キャバたまたんてい」が読んでもくれる絵本を、ぬいぐるみたちがみんなで楽しみます。

その後、おはなしのへやで絵本を探してあちこちへ。読みたい絵本が決まったぬいぐるみは、カーペットの上にもたれかかったりして、自分より大きな絵本を、ゆっくり楽しんで読みながら、豊洲図書館で一晩を過ごしました。

豊洲図書館
TEL (3536) 5931
Fax (3532) 5075